

## 新『バク舎』完成!!

～4月28日(土) 13時オープン!～

\* 14:00～ 飼育員のお話

風通しを考え  
屋根の高い  
動物舎。

動物舎内が見える  
ガラス窓。

バクの足への負担を  
軽減するため、  
砂を敷き詰めた  
グラウンド。

カルロス  
★2002年6月30日生まれ  
★オス

ミノリ  
★2004年10月23日生まれ  
★メス

リオ  
★2009年10月1日生まれ  
★オス  
★父カルロス・母ミノリ

### できごと



「12月21日撮影」

### 誕生!

「2月10日撮影」



☆ニシゴリラの「ゲンキ」が昨年12月21日にオスの赤ちゃんを出産しました!母乳が出なかったため、生後5日目に赤ちゃんを取り上げ人工保育になりました。今では、ミルクを飲み順調に育っています。赤ちゃんの成長を温かく見守って下さい。

### 新しい仲間



画像提供  
「東武動物公園」

☆東武動物公園からオスの口バが「おとぎの国」にやって来ました。まだ、少し緊張気味ですが仲良くして下さいね!

### 「アフリカの草原」 工事進行中!

☆現「キリン舎」から「おとぎの国」の間に「アフリカの草原」を建設中です。平成25年春の完成予定です!オープンまでしばらくの間お待ち下さい。(キリンは今までどおり御覧いただけます。)



### 安らかに

★昨年11月21日、グレビーシマウマの「リョウ」が心不全のため死亡しました。平成21年3月23日に来園し、「ライラ」との間に「キララ」をもうけました。今までありがとう。



### 寄付のお知らせ



ありがとうございました

国際ソロブチミスト京都様から「おとぎの国」カメ池の風車とソーラー電波時計を、(株)ワン・ワールド様から正月用装飾品一式を寄贈していただきました。





# 日本初！4世ゴリラ誕生！！



「京都に到着後、間もない頃のモモタロウ」

当園で生まれた3世ゴリラのゲンキ（メス）のお婿さんとして、東京都恩賜上野動物園で生まれたモモタロウ（千葉市動物公園所有）が2010年10月18日にやって来ました。

日本初の4世ゴリラの誕生に高い期待がかけられました。



「優しく迎え入れたゲンキ」

## 同居から初交尾まで



当時国内で飼育されているゴリラはわずか22頭にまで減少し、30歳以上の高齢個体が、その半数を占めていました。

モモタロウは10歳と若く、ヒトで言う青年期にあたる頃でした。一方のゲンキは24歳で、メスとして円熟期を迎える頃でした。

同居初日から2頭の相性は良く、モモタロウは近寄りたと思っている様子でしたが、ゲンキの方は、これまで複数のオスと仲良く暮らした経験を存分に発揮し、少し距離を置いていました。そして、

1週間経った頃、モモタロウがゲンキを捕まえて組み伏せ、頭や体をやさしく甘噛みしました。オスのゴリラは自分の力を見せつけ「威張りたい」のです。こうして、2頭のペアリングが順調に進んでいった2011年1月10日、ゲンキの上手なリードのもと初交尾が成立したのです。

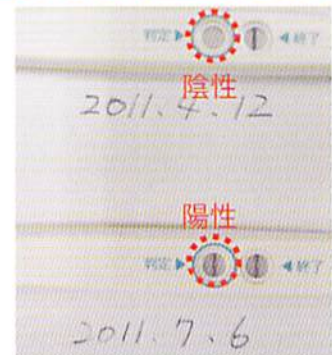
## 妊娠が確定

ゴリラのメスは、約28日の周期で発情がありますが、2011年4月13日の交尾以降、1ヶ月経過してもゲンキの次の発情も生理出血も見られません。

「ひょっとすると?!」と思いながら、妊娠判定の検査日を静かに待ちました。尿を採り判定を行うと、みるみるうちにスティックに陽性を示すラインがくっきり浮き出てきました（右の写真下）。

この簡易検査と糞中の性ホルモンの測定結果により、妊娠が確定しました。

無事生まれれば、当園ではゲンキが誕生して以来、実に25年ぶり4例目のゴリラの繁殖となり、また国内でも2年ぶり11例目の繁殖となります。多くの方々から応援メッセージが寄せられ、ゲンキのお腹は日を追うごとにドンドン大きくなっていきました。



「妊娠簡易検査で陽性反応」



「お腹の大きくなったゲンキ  
2011. 11. 14 撮影」



## 陣痛ぞして出産

2011年12月20日の夕方から本格的な陣痛が始まりました。四肢で立ち尽くして体を前後上下に動かし、陣痛の痛みをしのいでいました。ヒトの場合と同じように、陣痛の間隔が2~5分とかなり短くなってきたため、いよいよ出産が近づいてきたようでした。19時頃スタッフが監視カメラのモニター前に集まり、「今か？今か？」とカタズを呑んで、静かにその時を待ちました。

「赤ちゃんを抱き上げようとする」



「柵の上で陣痛をこらえるゲンキ」

そして、21日へ日付が変わる頃、それまで柵の上で陣痛をこらえていましたが、ワラを敷き詰めた床に降りてきました。落ち着きなくワラを抱えたり、動き回ったりしていたのですが、急に動きが止まり二足で立ち上がったと思うや否や赤ちゃんの頭が見えてきました。その後、あっという間に全身が姿を現しました。数字の1と2ばかりが並ぶ12月21日深夜12時12分のことでした。

## 兇事な母親ぶり！むかし人工哺育へ



「やさしく世話をするゲンキ」

出産後はすぐに自分で「へその緒」をちぎり、食べてしまいました。野生では出産の痕跡を残すと天敵に狙われる可能性があるため、「へその緒や胎盤」は母親が食べてしまうことが多いようです。その後は、床にいる赤ちゃんをまるで「宝物」を扱うように抱きしめました。初めての育児で、ゲンキがちゃんと赤ちゃんの世話をできるのが、とても心配でしたが、事前の育児教育（赤ちゃんと母親の様子を映像で見せる。ぬいぐるみを使って抱き方を教える。）のおかげかどうかはわかりませんが、ゲンキは母親としての自覚を持っていてくれました。

ゴリラの赤ちゃんは、母乳を飲まなくても約3日間生き抜けるだけの栄養を持って生まれてきますが、この間に母乳を飲めなければ水分や栄養が不足し、次第に衰弱してしまうため、母親から取り上げなければいけなくなってしまいます。私たちは祈るような気持ちで観察を続けました。そして、生後64時間でやっとゲンキの乳首に吸い付く赤ちゃんの様子を観察することができ、スタッフ一同「ほっ」と胸をなで下ろしました。翌日も元気に乳首に吸い付く赤ちゃんの様子が見られ、ゲンキの素晴らしい母親ぶりに感心しました。

ところが、25日の9時30分頃から赤ちゃんがゲンキにしがみつかり力が弱くなり、鳴き声もほとんど聞こえなくなってきました。ゲンキも今までとは違う様子に気付いたらしく、軽く叩いたり、強く抱きしめてみたりと、乱暴に扱うようになり、ついに、今まで片時も離さずに抱いていた赤ちゃんを、床の上に置くようになりました。赤ちゃんは全く動きがなく、11時50分に急いで母子を分離し、治療室へ運びま



「元気に哺乳瓶からミルクを飲む」

したが、脱水症状が見られ体温も31.8℃に下がっていました。急いで体を温め水分を補給すると2時間ほどで体温が約37℃まで戻りました。どうやら、母乳がほとんど出ていなかったようです。私たちスタッフは様々な議論をし、このまま人工保育で赤ちゃんを育てるという「苦渋の決断」を下しました。現在、特に体調を崩すこともなく体重も増え、すくすくと育っています。

最終的には人工保育という、望ましくない結果になってしまいました。皆さんは「人工保育」と聞くと「飼育員と動物の心のふれあい」というような、心温まるものを想像してしまうかもしれませんが、人工保育で育ててしまった動物は「ヒトとして刷り込まれ」てしまい、本来の仲間の中には戻って行くことができず、とても不幸なことになってしまうことも少なくありません。そこで「ゴリラらしく」育てられるように、できるだけ早く両親に戻す努力を段階的に進めていく計画を立てています。飼育担当 長尾充徳



# タンザニアの野生動物を訪ねて

## Part3

2011年8月に野生動物を訪ね、タンザニア連合共和国に行って来ましたので報告します。



### チンパンジー・ゴンベ国立公園編

ゴンベ国立公園はタンガニーカ湖のほとりにあり、アフリカで一番小さな国立公園です。1960年代からチンパンジーの観察が始まり、現在も続いています。公園内には約60頭が暮らしていて、今回は17頭に会うことができました。

公園内のチンパンジーは長年の研究者たちの努力で人づけされていて、これが本当に野生なのかと思えるほどの驚きでした。特に印象深かったのは、生後1週間の赤ん坊を抱いたゴールデンという名前のメスが、観察している私たちのすぐそばまで来て座り込み休むということでした。飼育下の動物でも赤ん坊を持っている時は警戒して人を避けるようなことが多いのですが、野生のチンパンジーが赤ん坊を抱いたまま人前で平然としている姿はとても不思議な光景でした。

現地では、チンパンジーたちの暮らす森を守るための活動も行われています。チンパンジーたちの生息環境を守るためには、単純に森を守れば良いというだけではなく、その周辺に暮らす人々の生活や文化・教育・健康・経済も含めて考えなければいけないということでした。チンパンジーも自然も人も守るのはとても大変なことだと改めて感じました。（飼育課 山下直樹）



\* 今回のアフリカ実地研修の派遣にあたっては、科学研究費補助金・特別推進研究（代表：松沢哲郎、No. 20002001）の援助を受けました。

## ～「おとぎの国」リニューアルオープン一周年に寄せて～

2009年に策定した、共汗でつくる新「京都市動物園構想」に基づき、最初の施設として「いのちの尊さ、いのちのつながり」をテーマに「おとぎの国」が2011年4月にリニューアルオープンし、一周年を迎えることができました。

「おとぎの国」は、生きている動物に直接触れることができ、いのちの温かさを肌で体感できる場所です。利用されるお客様の様子を見て感じていただくことは、ヤギ・ヒツジ・ミニブタに触れて笑顔いっぱい嬉しそうにしてくださる姿や、ウサギ・テンジクネズミを抱っこして、「可愛い」と言葉に出されることの多さに驚きました。

動物園では、珍しい野生動物や繁殖の難しい動物に子どもが生まれると注目されますが、「おとぎの国」にいる家畜動物に、触れるという行為をプラスすることで、野生動物以上に多くのことをお客様に感じ、考えてもらうことができるのではないかと改めて感じました。

これからの「おとぎの国」に大いなる期待を持ち、スタッフ一同頑張っていると思っています。「おとぎの国」の動物たちにぜひ会いに来て下さい！

（「おとぎの国」担当 竹中靖典）

定期購読を希望される方は、80円切手4枚（1年分）を同封して京都市動物園までお申し込みください。

氏名又は名称：京都市長 門川 大作  
事業所の名称：京都市動物園  
事業所の所在地：京都市左京区岡崎法勝寺町126  
動物取扱業の種別：展示

登録番号：070051  
登録年月日：平成19年5月22日  
有効期間の末日：平成24年5月21日  
動物取扱責任者氏名：和田 晴太郎